

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

47

私は歴史が好きである。そして、「大河ドラマ」が好きである。その大河ドラマで、やはり人気なのは「戦国時代」と「明治維新」である。この両方の時代は、政治的な大きな変革期でもあるが、その裏側で多くの日本人の生活も大きく変わっている。

日本の近代化下支え

「明治維新」後の日本の近代化を支えたのは、群馬県の養蚕業、製糸業、絹産業。私は日本史や大河ドラマでは見ていたが、実際に見たことはなかった。しばらく前に養蚕農家、製糸企業を見学する機会をいただいた。

蚕糸業、経済に影響

まず、養蚕農家。群馬県では「お蚕さん」と言われているが、蚕が大きくなるために、蚕に桑を多く食べさせる。桑を多く食べると、蚕は大きくなり、繭の量も増える。繭の量は、繭糸の量に直結する。繭糸の量は、絹糸の量に直結する。絹糸の量は、絹織物の量に直結する。絹織物の量は、絹織物の輸出額に直結する。絹織物の輸出額は、日本の輸出総額に占める割合が大きい。絹織物の輸出額は、日本の輸出総額に占める割合が大きい。絹織物の輸出額は、日本の輸出総額に占める割合が大きい。



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。